

「自分への投資」その費用対効果について考えよう

ファイナンシャルプランナー 福島えみ子

ボーナス時期を迎え、ボーナスを何に使おうかと考えるのも楽しみなシーズンになりましたね。旅行に行くのもいいけど、今年は投資をはじめようか、それとも資格取得のためのスクール通いや習い事等に使おうかとあれこれ計画をたてている人もいないのでしょうか。また、ボーナスの設定がないお仕事の方でも、新しい年に向け何かと気分が前向きにワクワクするような計画をたてていらっしゃるのでしょうか。

今の時代、とにかく少しでもお金を使わず貯金をしなくちゃ！と守りに入るムードも確かにあります。しかし、自分への投資となるお金まで削ってしまえば、自分の人生というものを長い目で見たときに結局は大きく資産を残せないのではないのでしょうか。貯金をふやすための3原則を思い出してみてください。

- ①入ってくるお金（収入）を増やす
- ②出ていくお金（支出）を減らす
- ③資産運用で増やす

この3つでしたね。この①の“入ってくるお金を増やす”を実現するためには、本業でレベルアップするためのさまざまな資格やスキルを身につけたり、副業で何か稼げる資格やスキルを身につけたり等々、自分のスキルを上げるためのなにかの先行投資、つまり「自分への投資」が不可欠になってきます。この「自分への投資」を節約してしまうと数年先も同じポジション・収入のままで余議なくされてしまうかもしれないだけでなく、もしかすると経済情勢によっては収入が先細りとなってしまいかもしれません。一方、「自分への投資」の定義や境界線は誠にあいまいですから、何でもかんでも「自分への投資」の名の元、その効果を考えず手当たり次第に支出を許してしまえば、収入は増えないのに手許に残るお金も減ってしまったということにもなりかねません。

金融商品であれば厳しく利回りを計算したりコスト計算したりするのに、自分への投資となるとたんにそのあたりの計算はあいまいになってしまったり、見積もりが甘くなったりしてしまいがちなのではないのでしょうか？

では、どのような自己投資であれば投下した資金を効果的に生かした“先行投資”となりうるのでしょうか？

結論からいえば、資金を投入前、つまり支出する前に、投入する資金額・年数・目的を達成した後どの様な効果を得られるのか、投入後それによって得られる可能性のある収入は投入した

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

資金や経費等のコストに見合うのかを検討した自己投資であることが大切です。

習い事や資格取得のためのスクール通いも月々の支払いはそれほど負担感がなくても資格をとるまでのトータルの学費を考えれば、自分が思っていたより大きな金額になっていたということもあるかもしれません。また、学費の支払いだけではなく資格取得の受験料・登録料・バッジや免状の発行料が必要になることもありますし、協会等への入会が資格保持の条件である場合などは、入会金・年ごとの会費を考えると合計すれば結構な額になることも少なくないので事前にトータルで考える必要があります。

例えばフラワーアレンジメントを習いにいくことを検討したとしましょう。単なる楽しみのためもしくは自分自身の癒しの時間等を目的に習いにいくのではなく、いずれはお花の資格をとって将来フローリストとして独立したりお花の教室を開いたりという目的があるのなら、習いに行く時点で先を見越した検討が必要です。検討すべき項目の例を以下で挙げてみました。

【資格取得・保持のためのコスト】

- ① 最低何回（何年）通えば資格を取得できるのか？
通っているあいだの学費合計・交通費
- ② 教室在籍中に展覧会や行事のために支出が義務づけられる費用はないか？
あればその概算
- ③ 取得した資格は所属団体等の登録を続けなければ保持できないものなのかどうか？
そうだとしたら、先々の年会費の合計額はいくらになるか？
- ④ 資格は保持のために数年に1回継続教育を受けなければならないなど、メンテナンスのための費用がかかるものなのかどうか？
- ⑤ 取得した技術・知識のアップデート、最新情報収集に必要となる費用

【資格をもとに仕事を始める場合のコスト】

- ① 例えば自宅でお花の教室を開いた場合の設備や必要器具などを揃える場合の初期費用
- ② 仕事を続けていく場合の経費
例えば自宅でのお花の教室なら、花材を仕入れにいくための交通費及び運搬費・レジユメ・写真プリント代・印刷インク代など
- ③ 集客のための費用（宣伝費）
例えば、チラシ印刷代、コミュニティペーパー等への広告掲載

上記各コストと予想される収入を比較してみると、どうでしょう？意外にいろいろなコストがかかり、自分が思い描いていたよりもお金の面だけを考えたと実際はそう甘いものでもないなということに気づく場合もありそうです。

また、果たして資格をとったら即仕事をして収入に直結させることはそもそも可能なのでしょうか？資格というものが巷にあふれている昨今、実際にはそのような資格や仕事は少ないというのが実情でしょう。特に国家資格・ビジネス系の資格よりも習い事系の資格には一層その要素が強くなるといえそうです。「好きを仕事に」という言葉は大変魅力的ですが、これを実現するには人よりも一歩先を行くアイデア力や行動力が必要となるのもまた現実のようです。

先の例では、ほんの一例として習い事系の資格を挙げてみましたが、国家資格・ビジネス系の資格でもやはり同様に、投入した資金をその資格を取得することによりどれくらい回収できるか？もしくはどれくらいの収入アップを見込めるかを考えることは大切です。

ただし、社会情勢の変化によって、もてはやされる資格も変わりますし、留学のように昨今のような円高の時期なら数年前よりも学費や生活費などのコストが少なくすむ、というような変化もあることでしょう。

そしてまた、仕事や日々の雑事からしばし解放されて楽しい時間を持つことにより癒される効果も大切です。この場合お金には換算しにくいかもしれませんが、その効果を支払う費用の対価として自身で充分認識できていれば、費用対効果は高いといえます。または長い目で見て自分の糧となると思えば、大きな意味でやはりそれは自分への投資といえるでしょう。しかし、素敵な一流レストランでのお食事、エステ、ちょっぴり贅沢な旅行、なんでもかんでも自分への投資としてしまうのでは、自分の将来のための資金計画、資産プランをもあやうくしてしまうおそれがあります。自分への投資というのは非常に便利で危険な言葉でもあるのです。

どこまでを自分への投資として画するかは難しい問題ですが、この点は個々の価値観によっても異なりますし、ライフプランを自分自身でどのようにデザインしていくかということにかかってくるでしょう。自分のことは自分で守っていかなければならないこれからの時代、自分へかけるお金、いわゆる「自己投資」には、始める前に少し立ち止まってその費用対効果を考え、ムダのないお金の使いかたをするというスタンスがますます重要なものとなってゆきそうです。